

会 議 名	第7回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会（有識者）
開 催 日 時	令和7年1月7日（火）18時～19時30分
開 催 場 所	港区役所 9階 914会議室
委 員 員	（出席者） 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部長 佐野 真一 港区青少年委員会会長 芝 耕太郎 認定NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵 都立六本木高等学校教員 吉谷 健也 子ども家庭支援部長 中島 博子 （欠席者） 公益社団法人東京青年会議所港区委員会委員長 橋本 惇巨
事 務 局	子ども家庭支援部子ども若者支援課 特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
会 議 次 第	<開会> 1 ひとりで過ごせる居場所づくり事業について 2 港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について 3 事務局からの連絡事項 <閉会>
配 付 資 料	資料1 ひとりで過ごせる居場所イメージイラスト（当日配布） 資料2 港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について 資料3 港区立子ども中高生プラザにおける中高生向け周知状況 資料4 港区立子ども中高生プラザにおける中高生の利用状況推移 参考1 第7回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会高校生世代委員議事録 参考2 第1回検討委員会資料6-3①「児童館・子ども中高生プラザ等」 参考3 第1回検討委員会資料6-3②「活動事例」 参考4 第1回検討委員会追加資料2「子ども中高生プラザの配置図」 参考5 児童館等利用状況（事業概要抜粋） 参考6 広報支援員作成 210302_各 SNS の特徴と違い
会議の結果及び主要な発言	
委員長	<開会> ただいまから、第7回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を開催する。今回は有識者のみの会議になる。それでは次第に沿って進めていく。
委員長	1 ひとりで過ごせる居場所づくり事業について はじめに、次第1「ひとりで過ごせる居場所づくり事業について」。 こちらは、ひとりで過ごせる居場所づくりのイメージイラストについて、第6回検討委員会及び、12月18日に開催した高校生世代委員による第7回検討委員会での意見を踏まえた内容である。 第6回からの意見及び高校生世代委員の第7回意見の反映に関して、乃村工藝

乃村工藝社 委員長 委員E	社に説明をお願いしたい。 (資料説明) イメージイラストについて意見や質問はあるか。 自分の施設で働く現場の人から意見を聞いてきたところ、カラフルな色使いは控え、落ち着いた色の方が良いのではないかという話が出た。学童や保育園のようにカラフルであると幼稚さがある。
委員長 委員E	落ち着きや温かみは残しつつ、幼稚過ぎない雰囲気づくりが大切である。 自分の施設はオシャレな雰囲気であるが、計算されたダサさを加える考えもあった。もう少し雰囲気を崩したかったが、どのようにするのが正解かは分からない。
委員長	オシャレ過ぎることで利用を遠ざけてしまう人もいる。これは具体的な居場所づくりまで残しておきたい意見である。
委員D	リラックススペースについてだが、あまり暗すぎるのも良くないのではないかと思う。リラックスするためにはある程度暗さがある方が良いということは分かるが、寝る場所ではないため注意が必要である。 また、利用者は子どもであるため、暗いところで何をするか分からないという懸念もある。
委員長	寝ることができるという機能はあるはず。しかし、暗すぎないことや人目が全くない状態を避けることは重要である。
事務局	イメージイラストにおいて修正がマストな部分は2点で、落ち着いた色を使用しより大人っぽい雰囲気にする、リラックススペースの手前をもう少し明るめのイラストにすること、以上の2点でよろしいか。
乃村工藝社	落ち着いた色とは何かイメージをすり合わせたい。暗めの色に修正する方向でよい。また、色の種類が多い分には問題ないか。
委員E	色が多いと子どもっぽさが出てしまう。緑や青など落ち着いていて男女関係ない色が良いのではないか。
乃村工藝社	色のバリエーションを減らして、色がビビットな部分は落ち着かせるように調整する。
事務局	近い色同士を並べるだけで落ち着いて見える。椅子などポイントポイントで色を変えらるというのも良いだろう。
委員B	イラスト上では床がカラフルになっている。例えば自習スペースの床をモノトーンにする、シンプルにするだけで落ち着いた雰囲気になるはずである。
乃村工藝社	そのように修正する。
委員長	2 港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について 次に、次第2「港区立子ども中高生プラザにおける高校生世代の利活用の促進について」へ進む。今日は、高校生世代委員で検討した内容を、ブラッシュアップする、というのが主な内容となる。はじめに、事務局から説明をお願いしたい。 (資料説明)
事務局 委員長	角田ファシリテーターやオブザーバーとして参加していた委員Cから、何か意見や補足があればお願いしたい。
委員C	ターゲティングの話が印象的であった。具体的に施設の中身が分からないと行きにくいし友人に紹介できないという意見から、全体の雰囲気が重要であることは自分にとって発見であった。また、利用者が高校生になったらボランティアとして利用するという話も出たが、それには危険性もあると思う。ボランティアとして参加する選択肢が増え過ぎると、ボランティアをしなくてはならないと思ってしまうかもしれない。
委員長 委員E	他に意見があればお願いしたい。 フィンランドや高輪へ視察に行った際に、中高生の利用が最も多いのはフリースペースであるという点が共通していた。特に決まった目的がない人はそこで時

	間を潰しているという話が印象的であった。1人でもいられる居場所を確保しなければ中高生の利用促進には繋がらないだろう。
委員C	自分の施設にも休憩スペースがあり、壁と向き合っている席やソファにニーズがある。移動できるパーテーションも用意したがあまりニーズがなかった。
委員長	日本ではユースセンターの利用目的として自習室の存在がある。自習室があることを全面に出して集客することの是非はあるだろうが、集客の種にはなる。
委員E	情報発信よりもスペースを充実させる方がニーズはあるかもしれない。
委員A	中高生プラザの利用者は各施設を目的によって使い分けて利用しているのか、委員Cに聞きたい。
委員C	混み具合などにより使い分けをしている。
委員A	中高生プラザの設備はオールマイティだが、各施設を館の特色を出しても面白い。
委員C	京都は地域全体で指定管理者が同一であるため、施設ごとの特色を出して運営することが出来る。
委員長	特色で分けすぎても利用者にとって不便になるため、オールマイティさも必要であるだろう。
	また、文化祭などの学校行事の準備で施設の利用者が増える話を聞いたことがあるがいかがか。
委員C	そのような利用も多い。
委員長	一度利用してもらおうというのは、チラシよりも中身を知ってもらえるため周知に役立つ。
委員D	自分の学校でホームルームや授業などの機会を使って周知できるかもしれない。
委員C	学校の先生と繋がることができるのは大きい。以前にある学校の校長先生が見学しに来て、校内で紹介してくれたことで利用者が増えた。
委員E	ヨーロッパには工作室を授業に貸すところもあった。それができれば周知になるかもしれない。
委員C	基本的に中高生プラザは部屋の貸し出しはしていない。中高生たちのバンドチームなどが利用する分には問題ないが、学校の先生からの授業での使用依頼は断っている。
	他校の生徒もいるため中にはトラブルが起こることを懸念している先生もいる。
委員E	インスタグラムやXは、競争が激しいので業者を使わなくてはなかなか新規の人に見てもらえない。そこから効果を出すのは難しそうである。1施設で行うより全体でする方が良いのではないか。
委員長	インスタグラムは拡散に向いていない。新規客よりは繋がっている人への周知向きである。麻布子ども中高生プラザの現状を見ても職員の労力をさき、SNSに力を入れるのは必ずしも良いとは限らない。
委員E	中高生プラザの施設の色使いに乳幼児感があるように思う。中高生にとってもう利用対象でなくなった感じはしないか。
委員C	麻布子ども中高生プラザはシックな色にした。
委員E	非交流型の施設には交流や相談のハードルが高い子が多い。一方でもっと話したい、もっと大人と交流したいという子もいるが、そのような子の気持ちを満たしてあげられないときがある。中高生プラザは非交流な要素を入れながらも、人と繋がる機会もあると非交流型との差別化になるのではないか。
委員C	学校と打ち合わせし、学校への出張プラザを検討している。その打ち合わせにおいて一定数は1人でいたい子がいるという話が出た。そのような子にとっては施設に来ること自体にエネルギーを必要としている。中高生プラザのどの部分に交流・非交流の間の要素を入れるか難しい。
委員長	中高生に向けに、できること増やすのは重要である。

委員C	そうするとイベントが出てくるが、そうではなく物理的な居場所を確保したい。
委員E	イベントは多くの子どもにとってはその施設に慣れた後や居場所になった後の次のステップであるように思うので、イベントで新規というのはなかなか難しいのではないか。
委員長	新規客を呼ぶ仕組みは必要であるが、それをメインにすることは良くないだろう。
委員C	利用者を時間帯で分ける話もあったが、中高生で分けるということか。
委員E	ひとりでいられるスペースがあれば中高生が一緒でも気にならないのではないか。
委員長	結果として中高生が出会えるきっかけになれば良いが望まない子もいるため、繋ぐことのメリットとデメリットはある。
委員C	麻布子ども中高生プラザは高校生の利用者の方が少ない。
委員E	高校生は部活に加えてアルバイトもできるため、中学生と比較して数としてのニーズが下がるのはある意味当然だと思う。
事務局	港区在住者の高校生において、アルバイト経験があるのは2割程度である。
委員長	ニーズがあるのに満たせていない層はどこか考えるべきで、「高校生の利用者が少ないから高校生を増やそう」などの単純な議論は避けるべきである。
委員C	利用をずっと続ける人には家庭の事情などの特性があるように思う。そういう子たちを拾い上げるためには、福祉的な質を保ちたい。
委員長	福祉的にし過ぎるわけではないが、中高生プラザだからできることがあるはずである。
委員C	闇バイトなどの犯罪へ向かうのを引き留めるためにも中退や留年の子にも施設へ来て欲しい。
委員E	自分の施設には地域性がない。地域との繋がりを断ちたい子が利用している点は強みだが、幼いころから見ていない、長い期間接していない点は弱みにもなりえる。地域に根ざした中高生プラザは成長を見ていけるのは非交流型との差別化になるのではないか。
委員長	次に資料2を議論の中でブラッシュアップしたい。
事務局	資料2について今までの議論を踏まえて補足する。
	まずは単に、利用者を増やすことを目指すのではないということが挙げられる。
	そして情報発信について、教員と繋がりを持つことは周知に役立つ。言い方は悪いがこの教員を「媒体」として使うことができる。発信方法としては、手段を増やすだけが正解ではない。事務局としてはフォローの有無に関わらず人に知られることがないため、LINEを活用するのも良いのではないかと思う。
	イベントなどのボランティア参加については、参加の有無について選択肢を設け、強要しないことが大切である。
	最後に、館ごとの特色は強く打ち出すのではなく、オールマイティにする。ただし、地理的な条件を考慮し特色は活かせるようにする。
委員長	港区の中高生は他にどこを居場所に行っているのだろうか。マクドナルドやスターバックス、施設以外の公共的なところ、例えば図書館などもあるがいかがか。
事務局	実態調査で「居心地の良いところ」の回答として、一番は自宅で90.8%、学校が32%、部活や習い事が14%、本屋が13%、区立図書館が11.9%、公園が10%、友人の家が8.9%などがあった。
委員長	どこにチラシを置くか、という話だと、今出てきた場所が良いという考え方ができる。
委員B	どこから集客するかは重要な話である。今までの議論はPR方法やターゲティングについて、施設のメリットについて、など話が分散しているように感じる。利用して欲しい高校生をどこから連れて来るかは、引きこもりか、図書館にいる

委員E	子か、などによって集客方法が変わる。 おしゃべりしたい子は子ども中高生プラザの方が合っているが、引きこもりや不登校の子など、コンプレックスを持つ子は交流型に行くのは一般的に抵抗があるのではないか。
委員C	外国籍の子どもは特に、保護者が進学や進路のことなどが分からないから相談の受け口になることもあるため、それも子ども中高生プラザの役割だと思う。
委員E	居場所を必要とする子どもたちの中には同世代で交流すると空気を読めず浮いてしまう子がいる。孤立させないという意味でも大人がコミュニケーションの練習台となって経験することは重要だと考えているので、交流型ではそのあたりが非交流との差別化になるのではないか。
委員B	他にも課題はある。例えば今 18 歳の子は 2 年後、つまりすぐに 20 歳を超える。こういった子を支援するのか、より若いこれからの世代を支援するのかということも話し合うべきである。
委員長	利用者のターゲティングは重要で、誰かの居場所になると誰かの居場所にならなくなることもある。地域や特色によって各館がある程度主体性を持って運営しなくてはならない。
委員C	子ども中高生プラザを運営して、高校生の就労支援については、どこと連携すれば良いか情報が欲しいと思うことがある。
委員E	連携は非交流型よりも交流型の施設の方がしやすそうに感じる。 就労支援の相談が実質的にできる連携先は日本全国として少ない、これについては全国的な課題である。
委員長	中高生プラザ間の情報共有、会議体があっても良いのではないか。
委員C	月に一度、児童館長会の後に短い時間だが、中高生プラザの施設長のみの情報交換の機会がある。
委員長 事務局	3 事務局からの連絡事項 最後に、事務局から連絡事項をお願いしたい。 予算公表は 1 月下旬である。
	次回日程について 2 月中に、事務局から検討委員会の報告書案を送付し、各委員から書面でご意見をもらい、あらかじめ案を調整したい。3 月は、参集開催、日程調整のうえ別途連絡する。
委員長	それでは第 7 回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を閉会する。
<閉会>	